

〈研究ノート〉

## 包括的性教育模擬授業における学生の性・性教育に関する思考の質的分析

青木利江子・清水 清美

### 【要旨】

本稿は、ウィメンズヘルス支援論における、包括的性教育を基盤とした包括的性教育模擬授業の企画・実施における（表1）「性・性教育」に関する学生の思考のプロセスについて、学生の振り返りの学習記録物にM-GTA 修正版グランデット・セオリー・アプローチ（以下M-GTA）を用いて質的分析研究を行った。学生は、2009年UNESCO、WHO等により作成、2018年に改訂された「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づき発達段階に合わせた性教育模擬授業を企画、実施していく中で、自らの性について考え、受けてきた性教育を振り返りディスカッションを実施した。学生の記録による分析は、ウィメンズヘルス支援論における包括的性教育に関する学び、ディスカッションの記録、包括的性教育模擬授業企画・実施前後の「性・性教育に関する思考」に関する記録をM-GTAにより分析した結果、性については9カテゴリーと27概念（表2）、性教育については12カテゴリーと29概念が抽出された（表3）。抽出された概念、カテゴリーを基にストーリーラインを形成し、包括性教育模擬授業の企画・実施を通じた学生の性・性教育に関する思考プロセスの概念モデルが生成された。

**キーワード：**性教育、包括的性教育ガイダンス、ウィメンズヘルス、学生の性思考、M-GTA

### 1. はじめに

WHOは現在、リプロダクティブヘルス、プレコンセプション、包括的性教育など、自分自身の性をより良く生きる権利、そのための発達段階に応じた継続的、包括的性教育を推進している（WHO, 2023）。特にWHOの提唱する包括性教育ガイダンスの8つのキーコンセプトは、1：人間関係、2：価値観・人権・文化・セクシュアリティ、3：ジェンダーの実際、4：暴力と安全確保、5：健康とウェルビーイング（幸福）、6：性と生殖に関する健康、7：セクシュアリティと性的行動、8：性と生殖に関する健康から構成され、5-8歳、9-12歳、12-15歳、15-18歳の発達段階に分け、上記の8つのキーコンセプトについて知識、スキル、態度について詳細にカリキュラム構成をしている（ユネスコ編、浅井ほか、2021）。

一方、わが国の性教育は、学習指導要領の中で実施されているが、幼少時から思春期・青年

期を通じた継続的な教育についての記載はない。発達段階に応じた教育機関間の教育内容の継続、連携を実施しているところは少なく、地域格差、学校格差がある（田中，2023）。WHOのガイダンスにおける性教育の内容は、具体的・実践的な性感染症、避妊等の内容が多く含まれ、対象年齢を日本の教育課程に当てはめると幼稚園、保育所、子ども園、小学校、中学校、高校の学校教育課程にあたり、包括的、継続的に教育カリキュラムが共有、連携することが必要とされる。わが国において養護教諭部会等、各発達段階の学校間連携は様々行われているが、発達段階を通しての縦の学校間連携はされていないのが現状であり、遠見（2023）は学校と助産師等と情報を共有・連携し、包括的性教育を継続していくことが必要と述べている。

また、子どもたちが性暴力の加害者や被害者、傍観者にならないよう、令和3年より、『生命（いのち）の安全教育』推進事業が進められている。本事業では、対象者を幼児（就学前教育・保育）、小学生、中学生、高校生、特別支援学校生とし、発達段階に応じて、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解したうえで、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人ひとりを尊重する態度等を身に付けることを目的としている（文部科学省，令和3年）。

このように大きな転換期にある性教育であるが、青柳ほか（2016）によると、学校現場では、カリキュラムの位置づけ、校内の指導体制、養護教諭の指導力、生徒の個人差が大きく実態の把握困難、費用の捻出などの課題があげられている。一方学校における性教育の意義には、「生命の尊重」、「人格の尊重」、「人権の尊重」などの根底を貫く人間尊重の精神が求められている（東京都教育委員会，平成31年、令和5年改訂）。

そこで本学では、専門基礎科目である看護学部の「ウィメンズヘルス支援論」において、健康教育の専門家として発達段階（幼児期、児童期、思春期、青年期）に応じた性教育が実践できるよう、昨年度から講義内にて性教育のプログラムを企画（プログラムの検討・指導案作成）、性教育模擬授業の発表会、聴講会を実施している。これらの企画・実施について学生のリフレクションペーパーから、模擬授業内容の選択、内容の分かりやすさ、教材の選択や工夫、声のトーンなどの教授技術に関する評価が多く挙げた。しかし、学生自身の性や性教育に対する認識および意義については明示されなかった。そこで、児童・生徒・学生として「性教育」の受け手であった学生が、初めて性教育の実施者となることで、性・性教育のディスカッションを通して学生自身の性や性教育の認識・意義についてどのような変化があったか明らかにしたいと考える。本研究は、包括的性教育ガイダンスを学んだ学生（看護学）が、発達段階に応じた包括的性教育ガイダンスの8つのキーコンセプトを考慮した性教育プログラムを作成し、包括的性教育模擬授業を企画・実施することを通じた、学生の模擬授業企画前から模擬授業実施後までの記録物から、性・性教育についての思考がどのように変化するかを分析し、発達段階に応じた性教育プログラム、大学における性教育について検討した。

## 2. 方法

### 2.1 用語の操作的定義

包括的性教育：包括的セクシュアリティ教育（Comprehensive sexuality education: CSE）はセクシュアリティの認知的、感情的、身体的、社会的諸場面についての、カリキュラムベースにした教育と学習のプロセスである。子どもや若者たちに、健康とウエルビーイング（幸福）、尊厳を実現することであり、尊重された社会的、静的関係を育てることにエンパワーメントできる知識、スキル、態度や価値観を身につけさせることを目的としている。そして子どもたちの選択がウエルビーイング（幸福）への影響を考え、生涯を通じて、権利の保護を理解し確かなものにする（ユネスコ編、浅井ほか、2023）。本講義では包括的セクシュアリティ教育（CSE）を包括的性教育と定義する。

### 2.2 研究方法

#### 2.2.1 対象者：

2023年度、看護学部「ウィメンズヘルス支援論」3年生履修者36名

#### 2.2.2 対象者への介入：

対象者への介入は①から④の手順で進めた。

- ① 対象学生に、ウィメンズヘルス支援論全13回（女性の体のしくみ、生殖器疾患、避妊法・家族計画、中後年期のケア、性被害等）のうち5回の中で性教育模擬授業の説明・企画・実施をした。1回を本研究責任者青木により「セクシャルヘルス（健康教育としての性教育）：包括的性教育・プレコンセプションケア」について105分の講義を実施し、包括的性教育の目的、指導案作成、模擬授業の実施についてオリエンテーションを実施する。留意点として、性教育の対象の発達段階に応じた内容であること、対象者の行動変容につながるものとする。講義後に「性・性教育に対して考えたことについて」（1,000字）記載した。
- ② グループワークを2回（105分2回）実施し、学生が実施したい発達年齢者、児童期〈小学生〉、思春期〈中学生〉、青年期〈大学生〉、成人期〈保護者〉の希望をとり、5～6人で1グループとし、性・性教育のディスカッションを通して、発達年齢の特性に応じた包括的性教育模擬授業を企画した。
- ③ 発表は1回（105分2回）発表時間は1G発表時間は20分（発表15分、質疑応答5分）とした。
- ④ 包括的性教育模擬授業の実施および他のグループ発表を聴講した後、学生個々に、リフレクションシートに「包括的性教育模擬授業の企画・実施を通して性と性教育に対して、企画・実施前からの変化、新たに考えたこと、性教育の意義について」（1,000字）記載した。

## 2.3 性教育模擬授業実施内容

表1 2023年ウィメンズヘルス支援論（模擬授業 包括的性教育グループ・実施内容）

	G	テーマ	キーワード	包括的性教育 キーコンセプト
小5	1G	思春期のからだの変化	二次性徴・プライベートゾーン・男女の身体の違い	キーコンセプト6 人間のからだと発達 キーコンセプト3 ジェンダーの理解
小5	2G	今日からできる自分を守る方法	プライベートゾーン・性的同意	キーコンセプト6 人間のからだと発達 キーコンセプト4 暴力と安全確保
中2	3G	SNSを通じた性被害の防止	自分自身の体について知り、自身の体を守る・SNSの利用方法	キーコンセプト4 暴力と安全確保
中2	4G	SNSを通じた性被害	SNS上に潜む性に関する危険を理解・困ったときの相談先や助けの求め方を知る	キーコンセプト4 暴力と安全確保
中2	5G	性行為の実際	性行為の実際	キーコンセプト7 セクシュアリティと性的行動 キーコンセプト5 健康とウェルビーイング (幸福)
高校生	6G	性感染症と避妊方法及び対処方法について	性感染症と避妊方法	キーコンセプト8 性と生殖に関する健康
高校生	7G	「性」について正しい知識を獲得し、健康的な性生活に繋げよう	性について正しい知識を獲得	キーコンセプト8 性と生殖に関する健康
大学生	8G	性感染症や避妊方法など性への正しい知識を身に付けることができる	性感染症・避妊方法	キーコンセプト8 性と生殖に関する健康

包括的性教育模擬授業 筆者作成

## 2.4 分析方法

### 学生の記録物の分析

学生の記録物（性教育模擬授業企画・実施前と企画・実施後の学生の記録物：性・性教育について考えたこと）をM-GTA 修正版グランデット・セオリー・アプローチ（M-GTA）による質的分析をする。学生の記録物は電子データで提出されたものであり、それを個人が同定されないようにし、M-GTAにより質的に分析する。M-GTAは、木下（2020）により構築された分析方法であり、GRAUS、STRAUSによるGTAをよりデータを活かした方法で分析する研究方法である。現象を理論化する分析方法であり、現象により検証され理論の更新がされていく。データから概念を生成し、カテゴリー、コアカテゴリーから結果図を作成し、ストーリーラインを作成し、現象を分析する。データの分析は分析焦点者（現象における実施者）の視点で、分析テーマに基づき分析をしていく。M-GTAにより、分析焦点者を「性教育模擬授業を企画・

実施した学生」とし、分析テーマ「性教育模擬授業の企画・実施・ディスカッションを通じた学生の性・性教育に関する思考のプロセス」について、学生の記録から性教育模擬授業の企画・実施過程における新たな気づきと思われる文脈について分析した（資料1、資料2）。

学生の記録物（性・性教育に関する思考）の分析に用いるデータは、ウィメンズヘルス支援論、包括的性教育に関する学び、ディスカッションの記録を含んだ性教育模擬授業企画・実施前後の「性・性教育に関する思考」に関する記録である。学生の記録物は電子データで提出されたものであり、それを個人が同定されないようにし、M-GTAにより質的に分析する。分析の過程では、M-GTAのスーパーバイザー研修を得た研究実績がある研究者、質的研究の実績を有する研究者を含み、筆者間で検討を共有しながら進めた。

## 2.5 倫理的配慮

本研究は、既存の学生の記録物等を使用したオプアウト研究であり、講義終了後対面、デジタルにて研究への参加の自由、個人情報保護、成績等への関連のないこと等、研究・研究後の参加辞退の方法について説明をした。また本研究は城西国際大学倫理委員会よりオプトアウト研究として研究発表等実施許可番号【2023-002】を受けて実施した。

## 3. 結果

### 3.1 包括的性教育模擬実践を通じた「学生の性・性教育に関する思考のプロセス」に関する概念

学生の記録物（性・性教育に関する思考）のウィメンズヘルス支援論、包括的性教育に関する学び、ディスカッションの記録を含んだ性教育模擬授業企画・実施前後の「性・性教育に関する思考」に関する記録物の質的データは、M-GTAにより分析した結果、性についての思考の概念は9カテゴリー（表2）、27概念、性教育については12カテゴリー、29概念が抽出された（表3）。抽出された概念、カテゴリーにより、研究結果の結果図（図1、図2）を作成し、ストーリーラインを以下に記述した。

### 3.2 包括的性教育模擬の企画・実施・ディスカッションを通じた「学生の性に関する思考のプロセス」のストーリーライン【 】カテゴリー、〈 〉概念

学生は包括的性教育模擬実践を計画、実践する中で、自らの性について、【性は個性】〈生まれる時に与えられた個性〉であり、【性はアイデンティティ】であり、【性には多様性がある】中で、〈自分をどう受け入れていくか〉〈自分の納得の性で生きる〉など自他の性について理解する中で性に対する【自由の権利】を持つと考える。【性は人生にとって必要】なものであり、〈人生とは切って切り離せないもの〉と考える。一方〈性を少し触れにくい話題と考える〉〈性について話し合う機会が少ない〉と包括的性教育講義を受ける前は考えていたが、性教育模擬

授業を計画・実施していく過程で、性や性教育についてディスカッション等【性について会話する】中で、〈性について実際に話し合うと恥ずかしさはあまりない〉〈性に対するオープンな会話が重要〉〈性について気軽に話し合う〉ことにより、〈ディスカッションにより性への思いを共感できる〉〈自ら性と向き合い考える時間が必要〉があると考え、〈人間関係力があれば相談を求めたりできる〉と考えた。

### 3.3 包括的性教育模擬の企画・実施・ディスカッションを通した「学生の性教育に関する思考のプロセス」のストーリーライン

学生は、自ら受けてきた性教育について振り返り、【性教育には差がある】〈性教育は地域差・学校差がある〉〈受けている性教育に男女差がある〉〈個人により性教育により差がある〉、

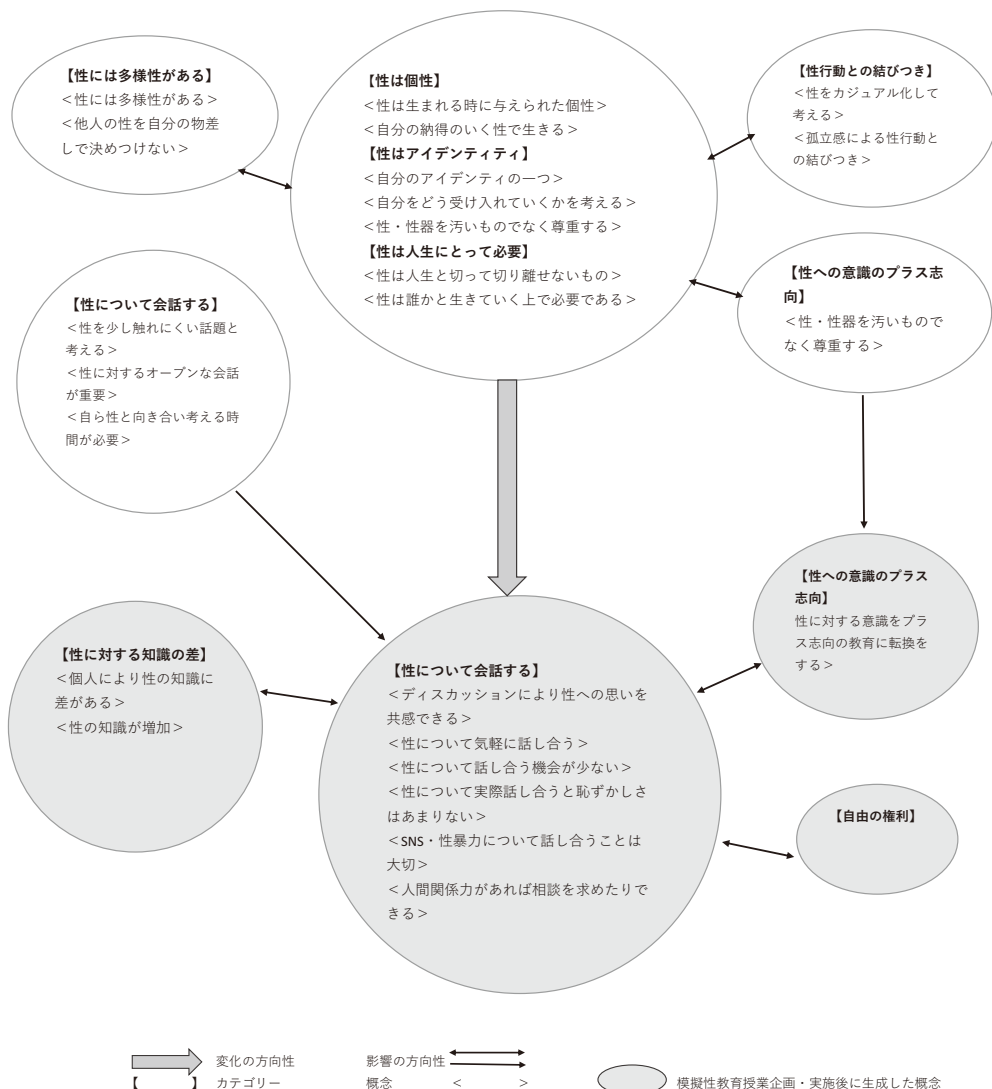


図1 性教育模擬授業の企画・実施を通した学生の「性」に関する思考プロセス

表2 「性」に関する思考の変化のプロセス概念

		模擬性教育授業企画・実施後に生成した概念	
1	性は個性	1	性は生まれる時に与えられた個性
		2	こうなりたいと思う姿が性であるとする
		3	自分の納得のいく性で生きる
2	自由の権利	4	自由の権利
3	性はアイデンティティ	5	自分のアイデンティティの一つ
		6	自分をどう受け入れていくかを考える
		7	性・性器を汚いものでなく尊重する
4	性は人生にとって必要	8	性は人生と切って切り離せないもの
		9	性は誰かと生きていく上で必要である
5	性には多様性がある	10	性には多様性がある
		11	性の多様性が当たり前になり平等に過ごしていける環境を作る
		12	他人の性を自分の物差しで決めつけない
6	性について会話する	13	性を少し触れにくい話題と考える
		14	性に対するオープンな会話が重要
		15	自ら性と向き合い考える時間が必要
		16	ディスカッションにより性への思いを共感できる
		17	性について気軽に話し合う
		18	性について話し合う機会が少ない
		19	性について実際話し合うと恥ずかしさはあまりない
		20	SNS・性暴力について話し合うことは大切
		21	人間関係力があれば相談を求めたりできる
		7	性行動との結びつき
23	孤立感による性行動との結びつき		
8	性への意識のプラス志向	24	性に対する意識をプラス志向の教育に転換をする
		25	性・性器を汚いものでなく尊重する
9	性に対する知識の差	26	個人により性の知識に差がある
		27	性の知識が増加

学生の性に関する思考のプロセス概念 筆者作成

そして〈他国の性教育に比べ遅れた性教育を受けている〉と感じ、【性教育に積極的になれない社会状況】や〈ネットで受ける情報は正しくない〉と感じる状況のなかで【恥じらいが減るようにする】、【性教育を平等に受ける】〈性教育を義務教育課程として平等に受ける〉〈男女一緒に授業を受ける〉〈性教育の機会を増やす〉〈性の知識が増加〉のような教育が必要であると考へた。また、発達に応じた【包括的性教育を受けられていない】〈人権・ジェンダー平等、性の多様性についてのセクシュアリティ教育が十分されてこなかった〉と感じていた。【性教育の開始時期】〈性に関する興味・関心につながることも配慮する〉〈性教育を行うことは性行

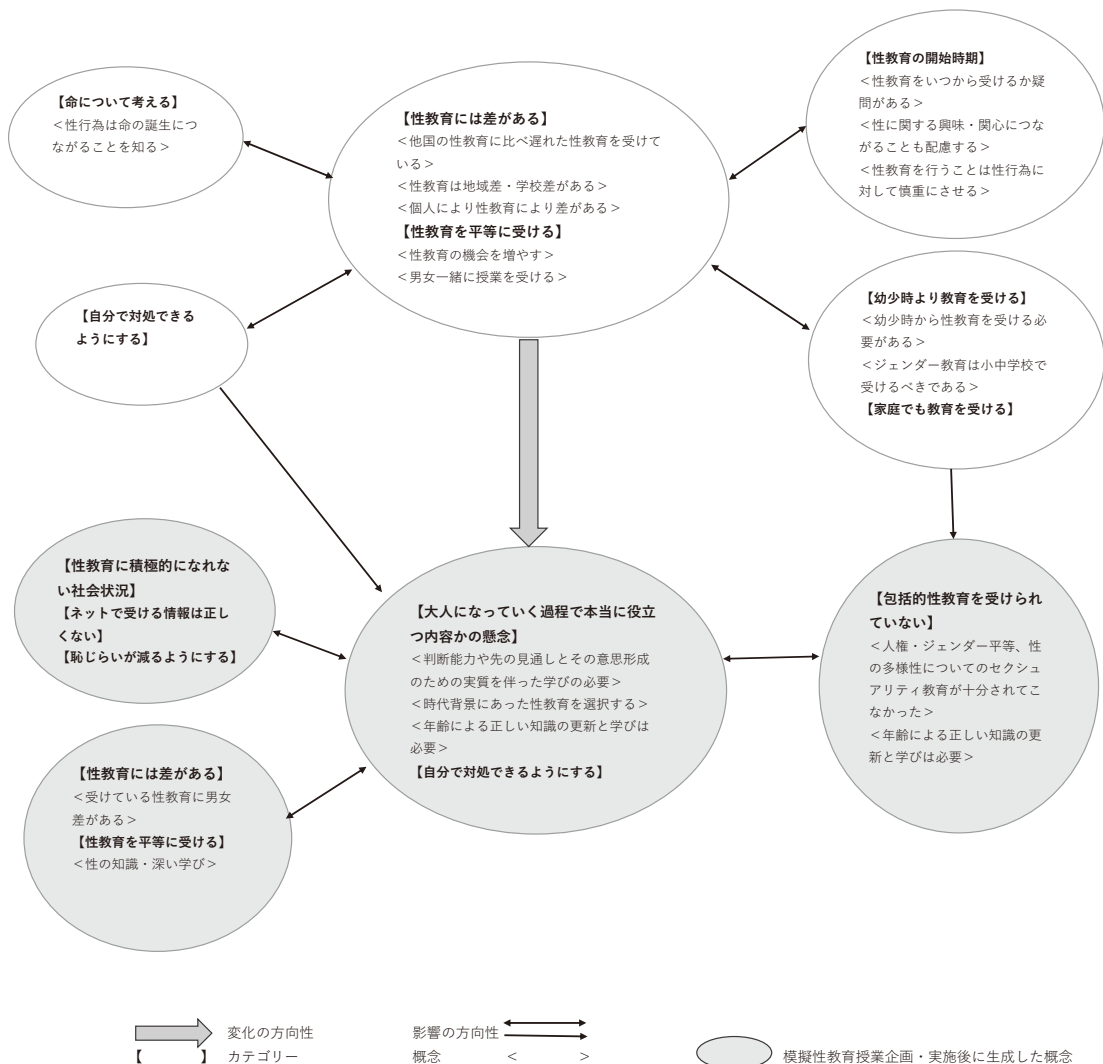


図2 性教育授業模擬授業の企画・実施を通した学生の「性教育」に関する思考プロセス

為に対して慎重にさせる) 両面について考え、【幼少時より教育を受ける】(ジェンダー教育は小中学校で受けるべきである) (家庭でも教育を受ける) ことは必要であると考え、【命について考える】 ことにより (性行為は命の誕生につながることを知る) (命の重荷も考えられる教育を受ける必要がある) (知識より倫理的な配慮を大切に) 重要性を考えた。そうすることにより (望まない妊娠を減らすことができる)、他者と【性について会話する】 (人間関係力があれば相談を求めたりできる) ことにより【性行動との結びつき】 (性をカジュアル化して考える) (孤立感による性行動との結びつき) を減らす事もできると考えた。また性教育模擬授業を企画し、実施する中で、【自分で対処できるようにする】 (自分で対処できるように知識を知っている必要がある) (恥ずかしさより自分を守る方法を教える方が大切) と考え、自ら受けてきた性教育は【大人になっていく過程で本当に役立つ内容かの懸念】を持ち、(時代背



表3 「性教育」に関する思考の変化のプロセス概念

		模擬性教育授業企画・実施後に生成した概念	
カテゴリー		概念	
1	性教育には差がある	1	他国の性教育に比べ遅れた性教育を受けている
		2	性教育は地域差・学校差がある
		3	個人により性教育により差がある
		4	受けている性教育に男女差がある
2	性教育を平等に受ける	5	性の知識・深い学び
		6	性教育の機会を増やす
		7	性教育を義務教育課程として平等に受ける
		8	男女一緒に授業を受ける
3	性教育に積極的になれない社会状況	9	性教育に積極的になれない社会状況にいる
4	幼少時より教育を受ける	10	幼少時から性教育を受ける必要がある
		11	ジェンダー教育は小中学校で受けるべきである
5	性教育の開始時期	12	性教育をいつから受けるか疑問がある
		13	性に関する興味・関心につながることも配慮する
		14	性教育を行うことは性行為に対して慎重にさせる
6	命について考える	15	性行為は命の誕生につながることを知る
		16	命の重荷も考えられる教育を受ける必要がある
		17	知識より倫理的な配慮を大切にす
		18	望まない妊娠を減らすことができる
7	恥じらいが減るようにする	19	恥じらいが少しでも減るようにする
		9	性教育に積極的になれない社会状況にいる
8	自分で対処できるようにする	20	自分で対処できるように知識を知っている必要がある
		21	恥ずかしさより自分を守る方法を教える方が大切
9	家庭でも教育を受ける	22	家庭でも教育を受ける必要がある
10	包括的性教育を受けられていない	23	包括的性教育を受けられていない
		24	人権・ジェンダー平等、性の多様性についてのセクシュアリティ教育が十分されてこなかった
		25	年齢による正しい知識の更新と学びは必要
11	ネットで受ける情報は正しくない	26	ネットで受ける情報は正しくない
12	大人になっていく過程で本当に役立つ内容かの懸念	27	大人になっていく過程で本当に役立つ内容かの懸念
		28	判断能力や先の見通しとその意思形成のための実質を伴った学びの必要
		29	時代背景にあった性教育を選択する
		25	年齢による正しい知識の更新と学びは必要

学生の性に関する思考のプロセス概念 筆者作成

景にあった性教育を選択する)〈判断能力や先の見通しとその意思形成のための実質を伴った学びの必要)について考えた。

## 4. 考察

### 4.1 学生は自らの性をアイデンティティを形成し人生において切り離せないものと考えている

包括的性教育の計画・実践にかかわる前後において、学生は自らの性を【性は個性】〈生まれる時に与えられた個性)であり、【性はアイデンティティ】であり、【性には多様性がある】中で、〈自分をどう受け入れていくか)〈自分の納得の性で生きる)こと【自由の権利】を持つと考える。【性は人生にとって必要】なものであり、〈人生とは切って切り離せないもの)と考えていた。専門職として自らの性と向き合い、学びの中で自らの性のアイデンティティを形成しつつあると考える。一方で性についてオープンに、気軽に話すことの必要性は感じているが、性について話す機会の少ない中で、避妊・性暴力・SNS等についての正しい知識の必要性を感じていた。四宮(2017)は看護学生の性教育の分析をし、大学生が今までに学校で受けた性教育の内容を明らかにした。看護大学生を対象に無記名自記式調査票を使用して調査を行い、質的記述的分析を行った。その結果、【自分が生まれた時のエピソードを知りライフヒストリーを考える】【思春期における心と体の変化】【男性と女性の違い】【ジェンダー性同一性障害】【受精から出産までの生命誕生の仕組み】【妊婦体験・子育て体験】【性感染症の危険性と予防法】【人工妊娠中絶や望まない妊娠について知り、避妊の大切さを学ぶ】の8つのカテゴリーを抽出した。本研究においては、包括的性教育の視点より、自ら受けている性教育の発達段階による適合性がカテゴリーとしてあげられ、性教育を振り返り今後専門家として性教育実施者となっていくためには、自分自身が性をどのように捉え、どのように自分の人生の中で、自らの性と向き合い、性を生きたいと考えるのかという、性に対する振り返りや思考が前提として必要と考える。

### 4.2 性についての会話の必要性

分析の中で、性教育の企画・実施・ディスカッション後に多くの概念が上がっていたのが性についての会話の必要性であった。〈ディスカッションにより性への思いを共感できる)〈自らの性と向き合い考える時間が必要)と考え、〈人間関係力があれば相談を求めたりできる)などの概念が抽出され、性についてオープンに話し、自らの性について向き合い、思いを共感したり、相談ができる環境を求めている。しかし現実にそうした話をオープンにできる人間関係、場所、機会は少なく、教育の中で今回のように、気軽に話せる、オープンな状況を作り、性や性教育について話す機会は必要だと考える。性教育に必要な事項として、遠見(2023)は以下のように述べている。子どもの性教育は日々のコミュニケーションの積み重ねが必要であり、性を人権の視点から幼少時より性に関する自己決定力を育む包括的性教育を体系的に学び、性

の健康を守るための利用しやすい社会システムなどの環境を整える必要があるとしている。

#### 4.3 性についての意識のプラス志向

性については、〈性・性器を汚いものでなく尊重する〉〈ネットで受ける情報は正しくない〉などにより、〈性教育に積極的になれない社会状況〉から、性に関して〈性を少し触れにくい話題と考える〉ことにより性について気軽に、オープンに話しあえない状況が生まれる。そうした中で正しい情報を得ないまま〈性をカジュアル化して考える〉〈孤立感による性行動との結びつき〉が生まれる。性についての〈恥じらいが少しでも減るようにする〉〈性は誰かと生きていく上で必要である〉〈性は人生と切って切り離せないもの〉として自らの人生を生きる中で、正しい情報に基づき、正しい選択をしていけるような社会や「性についての意識のプラス志向」になるような環境づくりが必要である。子どもを取り巻く性・性教育環境について田中（2023）は調査を教員（16名）に対して実施しており、教員の性教育に対する考え方は個別性が高く、指導に限界感を持つ教員もおり、教員自身が包括的性教育を受けた経験が少なく、生徒の個別性が大きいとし、教員は日々の関わりの中で自然に包括的性教育の一部を担っており、助産師は外部講師として包括的性教育の中心の教員と共通認識・連携し継続した教育を行う必要があると述べており、多くの専門家が連携し、性についての正しい知識に基づいた、安心して性にプラスに向き合える性・性教育環境を形成していく必要がある。

#### 4.4 包括的性教育の中で発達段階に合わせて幼少時より性教育をしていく

性教育の開始時期には、厚生労働省も慎重な方向性があるように、学生も性教育の時期に関しては【性教育の開始時期】〈性に関する興味・関心につながることも配慮する〉〈性教育を行うことは性行為に対して慎重にさせる〉開始時期の持つ両面性について考え、【幼少時より教育を受ける】〈ジェンダー教育は小中学校で受けるべきである〉〈家庭でも教育を受ける〉、また【命について考える】ことにより、性行動の責任を考えることの必要性を考えていた。一方で包括的性教育に基づき、発達段階に合わせて教育をしていく必要性も感じていた。自分達の受けてきた性教育を振り返り、【大人になっていく過程で本当に役立つ内容かの懸念】、〈判断能力や先の見通しとその意思形成のための実質を伴った学びの必要〉について考えていた。小平（2023）は、児童思春期精神科において、妊娠や性に関しては性暴力の被害児等の外傷体験を持つ子どもの診療が主体であり、将来の妊娠に向けた介入を視野に入れることは少なかったと思われると述べており、令和5年度「いのちの安全教育」など「今後は子ども、親への助言のため、国際基準に基づく包括的性教育について理解を深め、次世代の子どもの情緒的発達への影響も視野に入れ、児童思春期の治療的介入に取り組むなどプレコンセプションケアの視点に立った診療が必要になる。」としている。Dolores Ramirez-Villalobos et al.（2020）は公立中学校の教師への包括的性教育を実施した結果、有意に性に関する知識が向上し、介入群の生徒の性的行動における避妊法の使用確率は83.3%であったのに対し、対象群の生徒は58.3%の避

妊産率にとどまり、性行為の開始確率が4.7 ( $P < 0.01$ ) 倍であったとしている。Ilya Zhukov et al. (2022) は、学校に焦点をおいて進められてきた包括性教育は、学校外のすべての子どもたち、若者にも人権に基づく包括的性教育を展開していく活動の必要性について述べている。また坂井 (2023) は、性教育においてエビデンスに基づいた実践、対象となる地域の特徴を踏まえた、学校と連携した計画・介入を実施することが、包括的性教育の実践に重要であるとしている。

## 5. 限界と課題

本研究において、学生は、発達段階の特性に合わせて、継続的に性に関する知識・スキル・態度の形成をしていく包括的性教育の模擬授業の企画・実践・ディスカッションの中で、自らの性や受けてきた性教育について振り返り、課題・対策について考えていた。

本研究は看護を専門とする学生に対する性・性教育に対する思考であり、医療に関する基礎知識の限られている青年期の母集団の意識は相違があることも想定される。また包括的性教育は幼少時より思春期 (5-18歳) を対象としており、それぞれの世代が自らの性・性教育をどう捉えているか、また対象の性教育に関わる教育・医療・保健等の専門家、保護者は性・性教育をどう捉えているかについて把握・分析をしていくことは、対象や対象の支援者、地域等の特性・ニーズを捉えた性教育、環境形成につながると考える。

### 【引用文献】

青柳千春, 黒岩初美, 丸山幸恵, 佐光恵子, 松崎奈々子, 時田詠子, 高橋珠実, 新井淑弘. (2016).

高等学校養護教諭が感じている性教育に関する困難感と今後の課題. 群馬大学教育学部紀要, 51: 67-76

Ramírez-Villalobos, D., Monterubio-Flores, E. A., Gonzalez-Vazquez, T. T., Molina-Rodríguez, J. F., Ruelas-González, M. G., & Alcalde-Rabanal, J. E. (2021). Delaying sexual onset: outcome of a comprehensive sexuality education initiative for adolescents in public schools. *BMC public health*, 21 (1), 1-9.

Zhukov, I., Plesons, M., Mladenov, P., Faugli, B., Bjatnes, K., & Agarwal, A. (2023). The International Technical and Programmatic Guidance on Out-of-School Comprehensive Sexuality Education—an evidence-informed approach for non-formal, out-of-school programmes reaching young people from left-behind populations. *Sexual and Reproductive Health Matters*, 31 (2), 2242175.

木下康仁. (2020). 定本M-GTA-実践の理論化をめざす質的研究方法論. 東京: 医学書院.

小平かやの. (2023). プレコンセプションケアからみた精神医学—妊娠・出産に向けたメンタルヘルスの新たな潮流. *精神科治療学*, 38(5), 575-579.

坂井雄貴. (2023). これまでの性教育とこれからの性教育: 地域での性教育をみんなで考えよう!

- 家庭医が関わるジェンダー教育と性教育. 地域医学, 37(4), 403-408.
- 田中みのり, 夏秋史子, 田中佳奈, 五十嵐由美子, 近藤由理香. (2023). 教員の認識を基にした高校1年生への包括的性教育のあり方の検討. 東京母性衛生学会誌, 39(1), 22-27.
- 東京都教育委員会. (平成31年). 性教育の手引き. 取得先: [https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/about/text\\_kiso.pdf](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/about/text_kiso.pdf) (2023年11月25日閲覧)
- 遠見才希子. (2023). これまでの性教育とこれからの性教育: 地域での性教育をみんなで考えよう! 子どもの性教育. 地域医学, 37(4), 398-402.
- 文部科学省. (令和3年度). 学校等における生命(いのち)の安全教育推進事業. 取得先: [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/danjo/anzen/index.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html) (2023年11月25日閲覧)
- 四宮美佐恵, 安田陽子, 金山時恵, 北村万由美, 藤原弘子, 曾根清美, 村上博美. (2023). 看護大学生の記憶に残る性教育の一考察. 岡山県看護教育研究会誌, 41(1), 45-52.
- ユネスコ編, 浅井春夫, 良香織, 田代美江子, 福田和子, 渡辺大輔(訳). (2020). 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ. 明石書店.
- World Health Organization. (2023). HRP (the Human Reproduction Program; 国連ヒューマン・リプロダクション・プログラム) 発足から50年: 活動紹介: <https://japan-who.or.jp/news-releases/2303-44/> (2023年11月25日閲覧)

資料1 包括的性教育模擬授業における学生の性に関する思考プロセスの質的分析

分析ワークシート		分析ワークシート	
3 概念名 NO ( 1 )	性は生まれる時に与えられた個性	3 概念名 NO ( 8 )	性は人生と切って切り離せないもの
2 定義	性は生まれる時に与えられた個性である	2 定義	性は人生に大きく関わっている
1 バリエーション	11 私にとって性は生まれる時に与えられた個性であり、同じ性の人は誰一人としていないと考えています。女性・男性という2つの性別だけでなく、無性やトランスジェンダーなど世間一般的に決められた性別以外の方や女性だけどころよく思われたい中性的な方など、自分の性に対する考え方は一人一人違っていています。だから私にとって「性」は自分だけの個性だと考えました。	1 バリエーション	110 恋愛一つとっても自分の性自認によっても異なり、これは結婚、妊娠・出産なども同じことが言え、性が人生の中で開わたることが多く、ライフイベントやライフステージに大きく関わっており、人生とは切っても切り離せないことだと考えます。
	21 性とは一見男と女の2つに分けられると思われがちであろう。だがしかしLGBTQ+という言葉のように性には多様性があることが世界中で浸透し始めてきている。そのため、性とは自分の性別を表す指標ではなく、自分のキャラクターいわゆる個性を示す指標であると思う。		118 自分や身の回りの人を守ることが出来る正しい選択をとるためにも必要だと思う。どんな人であっても生きていく上で必要となる知識であるし、教育を受ける必要があると思う。
	111 一人一人、その人にしか分からない自分の性があると思う。自分で納得のいく性ですべての人が何も気にせず生きられるようになったらいいと思った。		119 幼少期には大人になるために必要な知識を身につけ心身の変化に対応していくための性教育が必要で、大人になるにつれて妊娠や出産、その過程、さらに老後の身体の変化など、生殖や性交についての知識を得るためだけではなく、人間関係や将来を決める大切な教育だと思う。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>性は自らに生まれる前から与えられた個性であると、科学的にみづからの性について捉えている。</li> <li>また性についての考え方も多様性は自分だけの個性であると考えている。性は性別でなく、自分の個性を示す指標であると考えている。</li> <li>また性に対する考えもその人自身にしかわからないものであり、自分の納得のいく性ですべての人が生きられるといいと考えている。</li> <li>一方性は「性別のカテゴリーでなく、人間として自分をどう受け入れるものなのかを導くものであると考える。」また「自分が生きていく人生の中の一つの指針」として考える意見もある。</li> </ul>	理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「性教育を始める時期」には様々な意見があるが、性は自らが生きていく上で、結婚、妊娠、出産などのライフイメージを考える上でとても大切なものと考えている。</li> <li>発達により心身の変化に対応し、生殖、性交、人間関係や将来を決める大切な教育である。それぞれの発達の時期に応じて教育していく必要があるとしている。</li> </ul>

学生の性に関する思考のプロセス分析ワークシート 筆者作成

資料2 包括的性教育模擬授業における学生の性に関する思考プロセスの質的分析

分析ワークシート		分析ワークシート	
3概念名 NO ( 16 )	ディスカッションにより性への思いを共感できる	3概念名 NO ( 24 )	性に対する意識をプラス志向の教育に転換をずる
2定義	ディスカッションにより性や性教育への思いを共感することができる。	2定義	人間の性をマイナス志向でとらえず、大切なもの、人間を豊かにしてくれるものとしての教育として考えるべきである
1バリエーション	213 今日、グループのディスカッションを行いグループメンバーの性や性教育に対しての考え方を共有できたため、改めて考える機会になった。グループ内では、小、中、高校で性教育としてどのようなことを習ったか、それに対してどのような態度で取り組んでいたか。などといったことについての経験を話し合い、ほとんどが共感できる内容であった。	1バリエーション	25 人間の性をマイナス志向で押さえ、いやらしいもの、近づかないものにならないで、基本的・本来的に大切なもの、人間を豊かにしてくれるものとしての教育として考えるべきである。
	21 恥じらいを持ち話せていなかった、性教育に対する思いや考え話についても話し合うことができました。また、恥じらいを持ったり、隠すといった傾向にあったのはなぜだろうと深く話し合うことができました。		
	23 教科書に載っている内容を一方的に与えられ、テストで知識だけを問うのではなく、自分たちで考えたことを話し合ったり、プレゼンする機会を作り、自ら性と向き合い、考える学びの時間が必要だと思います。そのためには、相談できる人の存在、恥じらいなく授業に参加できる空気作りが大切であるとグループで話し合うことができました。		
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの性について向き合い、話し合ったり、ディスカッションをすることにより、共感を持つことができる。</li> <li>包括的性教育は、発達段階に合わせて、知識・スキル・態度を教育するカリキュラムを持っており、自らの性について正確な知識を持ち、自らの性について自己決定し、健康・幸福、尊敬を実現することを目標にしており、そのためには自分の性について向き合う必要がある。また包括的性教育のコンセプトは1人間関係2価値観・人権・文化・セクシュアリティであり、自分と他者がどのように関わり、友情、愛情、家族、性、人権等について向き合い考えるためには、「性は人生と切り離せないもの」「性は誰かと生きていく上で必要である」と考え、自分や他の人の意見や価値観について理解することが必要になる。(スキル)</li> <li>一方で「性を触れにくい話題」「性のカジュアル化」「孤立感による性行動との結びつき」といった意見もあり、「自分をどう受け入れていくかを考える」「みづからの生徒向き合える時間が必要」と考えている。</li> </ul>	理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>性に対してマイナス・否定的な社会の風潮・概念・文化があり、その中で性を肯定的に捉えたり、自他の性について語る事が難しい文化がある。</li> <li>性に対するイメージを肯定的に転換していくことにより、自由に性について、友人、親子、家庭、学校、社会の中で話し合ったり互いの性を理解し、多様性に気づき、認め合う文化が生まれると考える。</li> <li>一方で「性教育については差がある」地域・学校・家庭差があり、性についての考え価値観にも個人差がある。「性教育の開始時期」「幼少時より受ける」「時期への配慮の必要性」、「性のカジュアル化・孤独感からの性行動化」など多様な意見がある。その中で話し合いにより「大人になっていく上での本当に役立つ内容かの懸念」発達に合わせた「包括的性教育が受けられていない」「判断能力や先の見通しとその意思形成のための実質を伴った学びの必要」、「自分で対処できるように知識を知っている必要がある」などの意見があった。</li> </ul>

学生の性に関する思考のプロセス分析ワークシート 筆者作成

# Qualitative Analysis of University Students' Cognitive Perspectives on Sexuality and Sexuality Education Through Simulated Instructional Sessions in Comprehensive Sexuality Education

Rieko Aoki, Kiyomi Shimizu

## Abstract

This paper describes a qualitative analysis of the cognitive processes of a group of university students regarding sexuality and sexuality education through their active involvement in instructional sessions of comprehensive sexuality education. Qualitative analysis with Modified Grounded Theory Analysis (M-GTA) was performed on evaluative documents generated by the students.

The instructional sessions, designed, executed, and evaluated by the students, were tailored to various developmental stages and were based on the International Technical Guidance on Sexuality Education. This guidance was published in 2009 and subsequently revised in 2018 by UNESCO and WHO. Throughout the course, reflective discussions were conducted to facilitate students in contemplating their own experience with sexuality and sexuality education. The evaluative documents analyzed with M-GTA included students' perceptions on women's health support and comprehensive sexuality education, records of the reflective discussions, and their perspectives on sexuality and sexuality education before and after the instructional sessions.

As a result of the analysis, 9 categories comprising 27 concepts (table2) for sexuality and 12 categories with 29 concepts (table3) for sexuality education were extracted. From the extracted categories and concepts, we constructed narrative sequences and established a conceptual model to describe the cognitive processes of students through the practice of instructional session centered on comprehensive sexuality education.

**Keywords:** Sexuality education, guidance on comprehensive sexuality education, women's health, student's sexual perspective, Modified Grounded Theory Analysis (M-GTA)